

カタロニアが拓く沖縄基地撤去＝独立の可能性

2018.2.2 大阪労働者弁護団

山下恒生（大阪教育合同労働組合顧問・大阪全労協顧問）

この間の経緯

2017年

- 10 / 1 住民投票（投票率4割、賛成9割） ←中央政府による弾圧で1,000人負傷
- 3 ゼネスト、以降大規模なデモ
- 27 カタロニア州議会が独立宣言
中央政府が憲法155条により自治権停止・州首相解任、議会解散、直接統治。反乱罪、扇動罪、公金横領容疑で州政府閣僚4名逮捕、5名亡命（欧州逮捕状）
- 12 / 21 州議会選挙－逮捕者3名、亡命者5名が議員当選



2018年

- 1 / 17 議会招集。議長にERCからトレント就任。30日の首相指名投票でプッチダモンを候補者とすることを確認
- 22 プッチダモンがコペンハーゲン大学で講演、翌日デンマーク独立指向議員懇談
- 24 トレント議長とプッチダモン会談（於ブリュッセル）
フェリペ国王がカタロニア批判（於ダボス会議）
- 25 中央政府がプッチダモンの首相候補は違法と憲法裁判所に提訴
- 27 憲法裁判所が候補者が出席しない首相選出は無効、最高裁の許可なく出席する場合は逮捕かつ議会開会を禁止する決定
- 28 プッチダモンがベルギー・フランダースで講演
- 29 逮捕議員3名亡命議員3名辞職で繰上当選により独立派過半数確保
国民党が（プッチダモン選出議会を開くと）「トレント議長は何が待っているかわかっているはずだ、彼には娘が2名いるんだから」と通告
プッチダモン所属政党が憲法裁1/27決定に異議申立
- 30 トレント議長が首相指名投票を延長、異議申立への憲法裁判断を待つ
- 31 プッチダモンからカタロニア閣僚への弱気メールをテレビがリーク
当該閣僚「持ち主を離れたメールは意味をなさない」
- 2 / 1 不当逮捕拘留を人権侵害として英弁護士が国連に申し立て

カタロニアの道 (Catalan Process) vs カタロニア危機 (Catalonia Crisis) にみる論点

1. 民主主義の危機

- ・ 中央政府が 12/21 選挙結果を否定 (社会労働党、市民党も了解)
- ・ 2006 年カタロニア自治憲章を中央議会も認証、2010 年憲法裁判所が無効判断
- ・ スペイン政府はカタロニアが民主主義を破壊していると非難

2. 立憲主義は国家 (中心) 主義

- ・ スペイン憲法裁判所の判断
- ・ スペイン憲法 155 条は地域の自己決定権を制約

3. カタロニアの特異性

- ・ 反フランコの拠点
- ・ カタロニア文化・言語ーカタロニア人はいない (スコットランド等との違い)
- ・ カタロニア独立支持者の半数はスペイン語派
- ・ カタロニアーエスニック (民族主義) の要素は希薄。難民歓迎の 50 万人デモ (2017.2)
カタロニア人口の 10.5%はヨーロッパ外からの移民

4. ナショナリズム (民族主義) かリージョナリズムか

- ・ 植民地解放による国家形成 (19 世紀～ 20 世紀半ば) ー「民族自決権」
- ・ 旧共産圏からの独立による国家形成 (20 世紀後半) ーバルト三国等
- ・ 西欧に於ける国家からの分離・独立 (21 世紀)
※グローバル時代のリージョン／リージョナリズムは地方的特質とか後進性ではない
(ロータル・ヘニグハウゼン)

5. ヨーロッパ (世界) への影響

- ・ EU (EC) はラホイ政府を支持。マクロン仏大統領「プッチダモンを越境させない」
- ・ ヨーロッパ議会での応酬ーアイルランド選出議員がエストニア代表を批判
コペンハーゲン大での議論ー独立反対論「ヨーロッパが 200 に分裂する」
※「1500 年のヨーロッパには 500 前後の独立した政治単位があり、1900 年には 25
ほどであった」(チャールズ・ティリー)
- ・ 分離・独立運動の共感ースコットランド、グリーンランド／フェロー諸島、
フランダース、コルシカ、パダーニャ

6. 国家と軍隊・基地

- ・ スペイン軍はイラク参戦。カタロニア州は軍隊不保持
※「国家が暴力を独占し戦争遂行の準備をするにつれ国家の諸制度が整備されていく」
「戦争が国家をつくり、国家が戦争をつくる」
(チャールズ・ティリー)